

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000732		
法人名	株式会社プラティア		
事業所名	地域密着認知症対応型共同生活介護 グルーホームプラティアひょうたん山		
所在地	〒578-0946東大阪市新池島町1丁目1番5号		
自己評価作成日	平成29年8月10日	評価結果市町村受理日	平成29年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	平成29年8月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針である ①ご入居者様が主人公 ②尊厳を保つ ③いきいきとした生活 ④認知症の進行を防止 ⑤地域社会と共に を柱としたケアに重点を置き、柔軟かつ繊細な対応に努めている。職員は入浴などのケアに関しては利用者が希望される時に対応できるように心がけ、認知症や接遇などの勉強会を実施し尊厳を持って接している。また近隣の店舗に外食や買い物に行ったり、散歩をしたりして閉塞感の無い生活をしていただくように努めている。地域との交流の取り組みを重視し、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。人員は人員基準以上の人数で個別に対応できる体制を取っていて、利用者中心の生活環境を提供できるように利用者本位のケアを実践している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

散歩や買い物等日常生活に便利な環境にある。川沿いの桜並木が見渡せ、館内は落ち着いた木調で、採光よく清潔な生活空間が提供されている。職員は笑顔と挨拶を心がけ、元気で明るい雰囲気づくりに努めている。自治会の協力があり、地域行事への参加・ボランティアの来訪、事業所のお祭りには地域の方の参加もあり、地域との交流を深めている。家族の面会や運営推進会議への参加が多く、「近頃のご様子」で毎月報告し、家族との連携のもとで、利用者支援に取り組んでいる。「寄り添い介護」を活用し、外食・外出等、利用者一人ひとりの要望を把握し、個別支援を行っている。クリップライン研修の導入、全体会議・フロア会議の定期開催、人事考課制度や内部研修の継続など、職員の資質向上と連携に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員は入社研修により説明を受ける。既存スタッフは毎月の全体会議にて、全員で唱和し、理念を再共有し実践に繋げている。	法人共通の理念・方針を明文化し、方針に「地域社会と共に」という地域密着型サービスとしての意義を盛り込んでいる。新入職者は、入職時研修で説明を受け、共有を図っている。理念をスタッフルームに掲示し、毎月の全体会議で唱和している。唱和の後に、理念に添った実践が行われているかを話し合い、振り返りを行っている。理念を映像化して配信するクリップラインを活用して、職員が具体的に理解し実践に繋げる取り組みを行っている。また、寄り添い介護を活用し、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新池島町自治会の行事に参加させて頂いている春祭り・秋祭り・秋祭り	自治会に加入し、春祭り・夏祭り等地域行事に参加している。運営推進会議への参加や随時の来訪があり、また、ボランティアの紹介など、連携を図っている。気候の良い時期には、日常的に散歩や買い物に出かけ、利用者が地域と交流できるように支援している。事業所の秋祭りは大規模に行い、地域からの参加も多い。地域のドラッグストアで、他のグループホームとも協力して介護相談を実施し、地域貢献にも努めている。また、気候の良い時期には、事業所周辺の清掃活動を利用者と共に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフルームに基本理念を掲示し常に意識することを心掛けている。全体会議でも唱和している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見、要望、助言等は積極的に取り入れている。自治会長、他GHからの参加もあり情報交換がなされている。	家族・地域包括支援センター職員・自治会長を構成メンバーとし、2ヶ月に1回開催されている。次回から、利用者と知見者（他事業所管理者）の参加を予定している。毎回全家族に開催案内を送付し、欠席の家族も意見が表せるように、案内状にメッセージを記入する欄を設けている。会議では資料を配布し、利用者の状況・事業所の取り組み・事故・実施行事・今後の予定等を事業所から報告している。家族の意見からの気付きや自治会長からの地域の情報等を、サービスや運営に反映している。会議録は玄関に設置して公開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず地域包括支援センターの職員にも参加して頂いている。又、弊社のブログにて皆様の様子を随時アップして、一般の方々にも閲覧して頂いている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、また、市からの介護相談員の受け入れを行い、事業所の状況や取り組みを伝えている。地域密着型サービス事業所連絡会に、年1回程度市からの参加があり連携を図っている。法人役員が、東大阪市介護保険事業者連絡協議会の居宅系地域密着型サービス事業者部会の座長を務めている。申請や更新等で不明な点があれば、市の担当者に質問し助言や指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は毎年行っている。又、その中で、拘束は身体にとどまらず、言葉での拘束もある事を確認し、日々の拘束のないケアの実践に繋げている。	運営規程に「身体拘束を行わない方針」を明示し、身体拘束を行わないケアを実践している。年間研修計画に「身体拘束について」の研修を盛り込み、29年度は3月に実施を予定している。研修は全体会議の中で実施し、研修レポートを提出している。欠席者にも資料配布し、研修レポートの提出を義務付け周知を図っている。クリップラインを活用して、個別に学べるシステムも採り入れている。気になる言葉かけがあれば、管理者層がその都度注意し、スピーチロックへの意識付けにも努めている。玄関の鍵は基本的には施錠しているが、利用者に外出の意向があれば職員が対応している。階段・エレベーターの使用は自由で1階・2階を行き来でき、閉塞感を感じないように配慮している。	

プラティアひょうたん山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても研修に組み入れ、虐待防止の徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年研修の議題に取り上げ、スタッフは理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を設けて説明を行い、入居者様や家族様等の不安や疑問を取り除き同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1度、担当スタッフが「近頃のご様子」を書面にして報告している。面会も多く利用者様だけでなく家族様の意見も多く反映されている。	家族の来訪時には利用者の近況を報告し、また、2ヶ月に1回、「近頃のご様子」を郵送し、家族から意見や要望が出やすいように努めている。また、職員は挨拶を徹底し、話しやすい雰囲気づくりに努めている。家族から出された意見や要望等は、ホーム長に報告すると共に、介護日誌の「申し送り事項欄」に記載して共有している。内容に応じては、フロアー会議で話し合ったり、エリアマネージャーに報告して適宜対応している。家族からの意見を受けて研修を実施したり、レクリエーションにDVD鑑賞を採り入れる等、サービスや運営に反映している。	

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に3回個人面談を行い意見の徴収に努めている。全体会議・フロアー会議で自由な意見交換、提案を出し合い議論している。	月に1回、全体会議・フロアー会議を実施し、職員が意見・提案を出し合って話し合う機会を設け、ホーム長・エリアマネジャーも参加し把握している。人事考課制度を導入し、年3回エリアマネジャーが個別面談を行い、職員の意見・提案を個別に聞く機会も設けている。管理者・エリアマネジャーが把握した意見は、内容に応じて、管理者会議で法人代表に伝える仕組みがある。業務分担・業務内容の調整や、レクリエーションに使用する物品や介護用品の購入など、職員の意見・提案を業務改善やサービスに反映している。職員の異動はあるが、利用者との馴染みの関係を大切に考え必要最小限にとどめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力主義賃金体系により、各自の努力が給与に反映するようになっている。また、外部の研修を受講する場合、法人が受講料の一部を負担する制度もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記の能力主義賃金体系は職能要件書というものを基にしており、それは、取締役、管理者、職員本人が面談の上記入しているもので、力量把握に有益である。事業所では随時研修があり、法人内での研修も実施されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊社の代表取締役は、東大阪市介護保険事業者連絡協議会の居宅系地域密着型サービス事業者部会の座長を務めており、勉強会、交流会等へは毎回参加し、同業者との交流会の機会には事欠かない。		

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接において、本人、家族様等から十分意見を聞き、それまでに関わりのあったケアマネや介護ワーカー、相談員等にも直接会って話を伺い、入居者様を多方面から知る事ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始の段階で、本人様の個室で、意思を表明しやすいよう配慮しながら、傾聴・受容・共感するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多くのニーズの中から、優先順位の高いものから実施するようにしており、他のサービスが必要なら即その他事業所に連絡を取る便宜も図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様を共同生活を営むものとして位置づけ、入居者様がすることがあれば、共に行い、食事も同じものを一緒に楽しくいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時家族様と連絡を取り合っている他、本人様と家族様が疎遠にならないよう来訪をご負担にならない範囲で促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の馴染みの場所や人との邂逅ができるよう、個別の外出支援もしている。	家族の面会が多く、また、友人の来訪もあり、居室や共用スペース等、希望の場所でゆっくり過ごせるように、訪問しやすい雰囲気づくりに配慮している。利用者・家族の希望する馴染みの理美容院の利用、かかりつけ病院への通院等、馴染みの場所との関係継続を支援している。「寄り添い介護」を活用し、馴染みの場所への個別の外出支援も行っている。手紙・電話による関係継続も支援している。	

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のコミュニケーションが円滑になるように、職員は随時仲介役になっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族様や退去先等と連絡を取り、随時経過を聞きつつ、相談を受ける事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを整備し直し、現状の意見を取り入れるようにしている。	入居時に把握した利用者・家族の意向は「利用者調査票」に記録し、介護計画に反映している。日々のコミュニケーションで把握した意向は、介護記録の「申し送り事項」欄に記録して共有して迅速な対応に努め、内容に応じて「寄り添い介護」を活用して対応している。思いや意向の把握が困難な場合は、家族からの情報・意見や、以前の利用者の言動を参考にし、また、利用者の表情や反応に留意し、本人の立場に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様はもとより、家族様や関わりのあった前ケアマネ等からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメントやフロア会議、日々の申し送りを密にすることで、現状の把握に努めている。		

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様の意見要望をベースに、主治医・看護師・鍼灸の先生等にも相談しながらチームケアを進めている。	「利用者調査票」「現在の状況」を基に課題抽出し、介護計画書を作成している。利用者個々の介護計画は、毎月のフロア会議で周知を図り、「暮らしの状況」「身体状況」から重点項目をピックアップして「毎日モニタリング票」で実施状況を記録している。各種チェック表や「介護日誌」にも、サービス実施や利用者の様子を記録している。毎月のフロア会議で利用者の課題について検討し、介護計画変更の必要性の有無について確認している。モニタリングは3ヶ月に1回行っている。定期的には、6カ月ごとに介護計画の見直しを行い、見直し時には、モニタリングと再アセスメントを実施し、サービス担当者会議を開催している。	介護計画とサービスの実施状況の整合性が明確になり、モニタリングの根拠となるような、記録方法のルール化と工夫が望まれる。また、実施状況・目標の達成度からの評価が明確になる様式の工夫が望まれる。サービス担当者会議録に、利用者・家族の意向、関係者からの意見の聴取も記載し、一元化することを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の介護日誌に気づきや変化等を記入し、それを題材に会議やカンファレンス等で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	形にとらわれない、社会資源の有効活用を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報誌や回覧板、フリーペーパー等に目配りし、地域資源の把握に努め、利用できるものは活用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の 関係を築きながら、適切な医療を受けられる ように支援している	当グループホームには契約による主 治医がいるが、家族等の希望等があ れば、他のクリニック等への変更にも 応じている。また、内科以外の受診 （通院）の支援も行っている。	入居時に確認し、利用者・家族の意向に沿った受 診支援を行っている。内科・精神科・歯科・眼科 の往診や訪問看護を、定期的に受けられる体制が 整備されている。希望に応じて、鍼灸師の訪問を 受けることも可能である。通院による受診にも可 能な限り、職員が同行し、心身の状況や生活の様 子を直接説明し、受診結果を把握している。医療 連携体制を整備し、訪問看護と往診の結果は「医 療連携記録」と「往診記録」に連動的に記録され ている。通院については、介護日誌の「申し送り 事項欄」に記録している。家族には、電話で迅速 に連絡したり、「近頃のご様子」に記載する等、 内容に応じてた方法で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師 等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な 受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間の連絡体制が確立 しており、随時報告・相談等をして いる。必要に応じて緊急にホームへ 足を運んでくれることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、又、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に努め ている。あるいは、そうした場合に備えて病 院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず介護サマリーを提供 し、必要な情報を伝え情報交換して いる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、 早い段階から本人・家族等と話し合いを行 い、事業所のできることを十分に説明しなが ら方針を共有し、地域の関係者と共にチーム で支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針を明文化し、入居時に説明、同意も得てい る。看取りでは提供医療機関の看護師 と密に連携し対応するようにして いる。	重度化・終末期に向けた事業所の方針は、「医療 指針説明書」で契約時に説明を行い、指針につい ての同意と、契約時点での意向確認を行ってい る。看取り介護の事例はないが、終末期を迎えた 段階で、主治医から家族に説明を行い、事業所が 再度の指針説明と意向確認を行い、家族の意向に 沿った支援を行う。看取りの介護計画を作成し、 利用者の状況については、介護日誌とバイタル表 に詳細に記録する。家族との話し合いや看取り介 護の経過については、支援経過記録に記録する。 という体制を整備している。年間研修計画に盛り 込み、29年度に「ターミナルケア」の勉強会の実 施を予定している。	

プラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて、急変や事故発生時の対応・応用力がつかうように努めている。	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者が防火管理者となり、消防計画を消防署に提出。年2回通報・避難・消火訓練を行っている。	29年1月に、昼間想定で通報・避難誘導訓練を実施し、29年10月に夜間想定での訓練を予定している。	訓練実施後には、実施状況や振り返り・評価等を記録した記録の整備が望まれる。運営推進会議の機会を生かし、非常災害時の地域との協力関係を構築する取り組みが望まれる。また、備蓄の担当者を決め、リストを作成し、水・食料・備品など必要物品の備蓄と管理を行うことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営方針の中で尊厳をうたっており、また、研修でも、高齢者の人権やプライバシーの確保等を取り上げている。	運営方針に「尊厳を保つ」を掲げ、周知と実践に取り組んでいる。年間研修計画に採り入れて、「プライバシー保護」についての勉強会を29年度は1月に予定している。クリップラインを活用した研修でも学ぶ機会を設けている。日々のケアの中で気になる言葉かけや対応があれば、管理者層からその都度注意し、意識向上に努めている。個人記録類はスタッフルームの鍵のかかるロッカーに保管し、掲示やブログでの写真の掲載については意向を確認し、個人情報の適切な管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が思いを表明しやすいような言葉かけや、自己決定を促すような声掛けを行なっている。	/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当法人は何よりも「入居者本位」を第一に考えている。	/	

プラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは、介護計画の項目にもあり、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好に応じたものを提供するようにし、出前や外食も取り入れている。又、入居者様と職員が共に食事をするのはもちろん、できる方には、準備や後片付けも一緒にして頂いている。	委託業者から献立と食材の搬入を受け、各フロアで調理し、手作りの食事を提供している。献立には、季節感や行事食が採り入れられている。また、利用者の希望や状況に応じて、献立をアレンジして提供することもある。野菜の皮むき等のごしらえ・お盆拭き・下膳等、利用者ができるところに参加できるように支援している。職員も一緒に食卓を囲み、家庭的な雰囲気ですごすように配慮している。外食レク・バイキング・寿司の購入・誕生会等、変化が楽しめる機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量チェックシートにて一人ひとりの状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一度の歯科往診で診察を受ける他、居宅療養管理指導も受けており、又、自身でできない方には介助にて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、個々の排泄パターンを把握している。自身で出来ない方には、誘導、あるいは介助にてトイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表を活用して、個別の排泄状況や排泄パターンを把握し、日中は可能な限りトイレでの排泄ができるように支援している。状況に変化があれば、フロア会議や随時の話し合いで検討を行ない、現状に即した排泄用品や介助方法を採用している。声かけやドアの開閉等、羞恥心への配慮について周知徹底している。	

プラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、おやつ等の内容や形態に配慮することはもちろん、主治医に相談し適宜その方に合った薬を処方してもらっている。毎日テレビ体操等も取り入れ身体を動かして頂いている。	/	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間等は固定せずに、気分や希望等に応じて入浴して頂く。入浴を嫌がる方には、時間を掛けてお話しして入浴に繋げたり、それでも断られる時は、清拭や足浴等に切り替えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や状況等に応じて、安心して安全に休息、あるいは睡眠をとって頂けるように支援している。	/	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康管理日誌には、薬の変更、追加等の情報が記されていて全スタッフが目を通すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の持つておられる力を発現できるよう、又、嗜好や楽しみが実現できるよう、生活歴を掘り下げ、希望等を聞き、それらに添ったきめ細やかな支援を行っている。	/	

プラティアひょうたん山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のいい時期には日常的に散歩に出かけている。又個別の馴染みの場所や行きたくても普段行けない場所等にも、業務内容や職員の人員をやりくりし、時には家族様等の協力も得て、出掛けられるよう支援している。	気候の良い時期には、日常的に散歩に出かけたり、事業所の買い物に同行する等、外出の機会が持てるように支援している。フロア単位やグループで、地域の祭り・外食レク・花見・ふれあい祭り等に出かけている。寄り添い介護を活用して、映画鑑賞等、希望の場所への個別の外出支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が手元にないと不安を感じられる入居者様には、ご家族様の了承の下、少額の現金を所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという入居者様の希望には随時応じている。手紙についても、代行での切手や便箋等の購入や投函をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビング等には、入居者様の手による、季節が感じられる切り絵や絵画、習字、写真等を掲示している。	南向きで採光よく、ゆったりと広い共有空間は、明るく清潔感がある。テーブル席と、ソファセットがあり、思い思いにくつろげるように配慮されている。壁面には、外出などで撮影した写真や、利用者と一緒に制作した季節感のある絵や折り紙の作品が飾られている。隣接したキッチンから調理の音や匂いが感じられ、家庭的な雰囲気を大切にしている。中庭・裏庭・ベランダに椅子やテーブルを設置し、外気浴やお茶・嗜好品を楽しめるよう支援している。また、1階・2階を自由に行き来し、利用者間の交流や気分転換ができる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人掛けの椅子や多人数用のソファを、リビングに置いて、思い通りに過ごして頂けるようにしている。		

プラティアひょうたん山

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのも のを活かして、本人が居心地よく過ごせるよ うな工夫をしている	各居室は、在宅生活の継続が図られ るよう家具等出来るだけ馴染みの物 を持参して頂くようにしている。	居室内は、クローゼットと洗面台が設置され、ベッ ド・タンス・テレビ等使い慣れた家具や、仏壇・ 家族の写真・ぬいぐるみ等思い出の品が持ち込ま れ、居心地よく過ごせる居室づくりが行われてい る。DVD等、趣味が継続できる持ち込みもあ る。ベットからの転落事故防止など、安全面にも 個別の配慮が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わか ること」を活かして、安全かつできるだけ自立 した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、 諸々の掲示も分かりやすさを旨とし たものとしている。		